



目次

- 2 … 徳良湖築堤100周年記念イベント
- 6 … 重要事業要望活動
- 8 … トピックス
- 10 … おばなざわ日記
- 12 … みんなのページ
- 14 … お知らせ
- 16 … おばなざわ事典

おいしいお米が  
 できますように!

令和4年  
**6月**  
 No.850

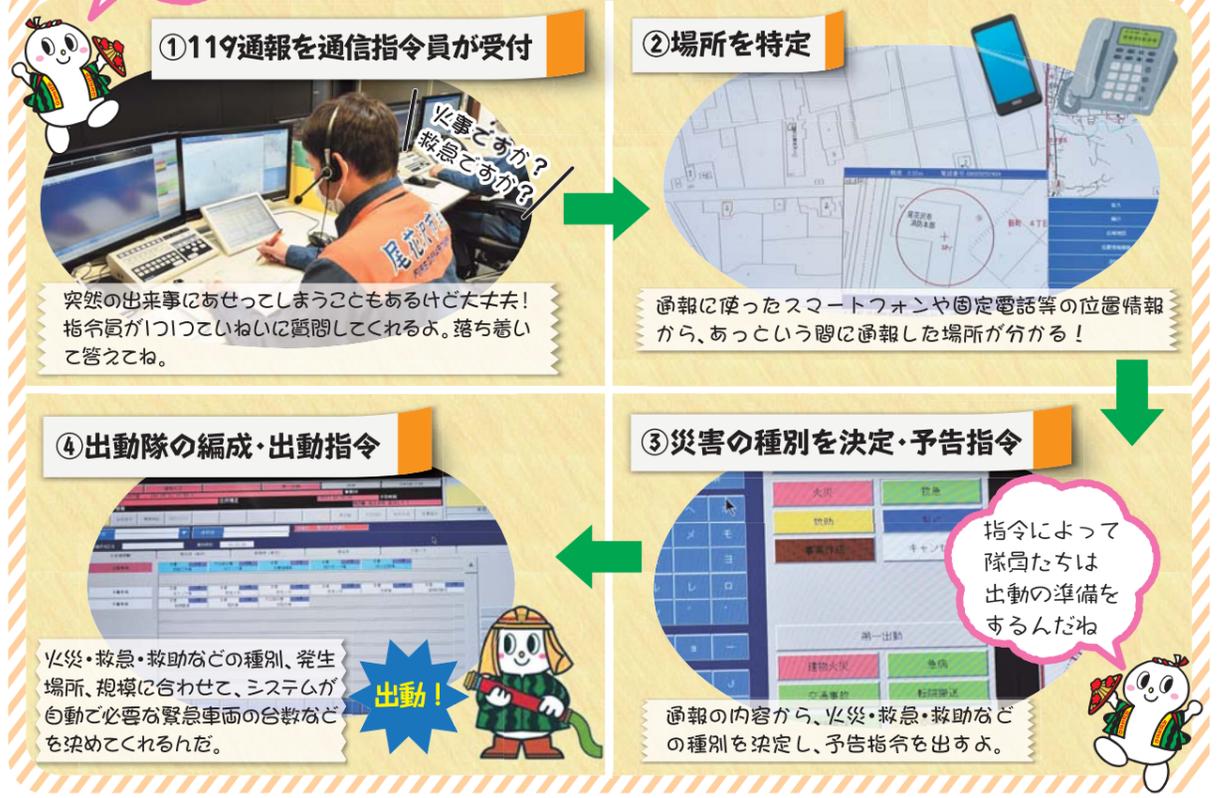
高機能消防指令センター

尾花沢市消防本部内にある、「高機能消防指令センター」をご存知ですか？  
 わたしたちが尾花沢市・大石田町管内から119番通報をする時、このセンターで受付されます。通報のあった場所へいち早く駆け付け、消防活動を速く・的確にできるよう、24時間体制で消防署員が待機し、システムで管理しています。  
 119番通報を受けてから出動するまで、この指令センターで行っていることをご紹介します。

24時間・365日、  
 ここで消防署員が  
 みんなの安心を  
 守っているよ



119通報から出動  
 までを、ぼくと  
 一緒に見てみよう!



市の人口と世帯

6月1日 現在	前月比
男 7,233人	(-1)
女 7,436人	(-11)
計 14,669人	(-12)
世帯数 5,292戸	(+1)

先月中の動き  
 (届出件数)

出生 ……	5人
死亡 ……	15人
転入 ……	23人
転出 ……	25人
婚姻 ……	1組

表紙

「おいしいお米ができますように！」

初夏を感じさせる日差しが燦々と降り注ぐ中、玉野小学校3～6年生が昔ながらの田植えを体験しました。地元農家の方や農協青年部の方々に指導を受けながら、泥まみれになって木杵を転がし、一束ずつもち米の苗を手で植えていく子どもたち。「泥の中あったか〜い」「苗もってください!」と元気な声が飛び交います。  
 小学生にとって昔ながらの農作業の大変さは新鮮な体験のようですが、農作物を育て、食べる喜びとありがたみを知る機会にもなっています。  
 (5月26日 玉野小学校実習田にて)



# 徳良湖築堤100周年

## 花笠の唄と踊りに願いを込めて

### 未来へ受け継ぐ「どんづぎ恋」の心

大正8年9月27日に着工し、大正10年5月27日に完成した徳良湖。令和3年で100周年を迎えたことを記念し、徳良湖畔で様々なイベントが開催されました。



#### 徳良湖畔で築堤100周年記念の花笠踊りとコンサートを開催

徳良湖まつり初日となる5月3日には「徳良湖一周花笠踊り」が開催されました。花笠踊り保存会や市内の団体、個人参加者など、約300人が湖畔の遊歩道に整列し、滴々と水をたたえる湖面に向かって一斉に花笠踊りを踊り、築堤100周年をお祝いしました。

また同日、徳良湖まつりメイン会場では、天童市出身のシンガーソングライター山口岩男さんによるコンサートも開催。徳良湖築堤100周年を記念して山口岩男さんより制作していた「徳良湖どんづぎ恋の唄」が披露されました。築堤作業に携わった若者たちが土搗き（どんづぎ）作業中に唄った唄が現代風にアレンジされ、当時の若者たちに想いを馳せたメロディーが会場に響き渡ると、集まった観客は、今では憩いの場となった徳良湖に吹く心地良い風を感じながら、演奏に聴き入っていました。



#### 徳良湖築堤100周年記念「徳良湖どんづぎ恋の唄」

（歌詞は徳良湖築堤当時の土搗き唄より山口岩男さんが選び、曲の一部を新たに作曲）

1. おらの在所にきてみやしゃんせ  
米のなる木がお辞儀する
2. おらど、んがねが ままごとすねが  
ついに夫婦の真似すねが
3. 惚れて惚れられて添うのが縁だ  
親達定めりや無理な縁
4. 文（ふみ）はやりたし書く手はもため  
白紙やるから文（ふみ）と読め
5. 書いた紙さえ読まね私  
ただの白紙なんとな読む
6. 早く晚げになれ 西の山くもれ  
早く事務所の鐘が鳴れ
7. わしの在所にきてみやしゃんせ  
米のなる木がお辞儀する  
徳良湖どんづぎ シャンシャンせね!



▲5月3日徳良湖畔で行われた「山口岩男コンサート」（写真左側：山口岩男さん、右側：キーボード奏者の金子勲さん）。徳良湖築堤工事に携わった若き作業員たちの恋模様を視点を当て、土搗き唄を現代風にアレンジした曲が披露されました。

#### 築堤作業中に生まれた「土搗き（どんづぎ）唄」と恋模様

大正8年から足掛け3年の間に行われた徳良湖の築堤工事に携わったのは、周辺の農村から集まってきた男性18歳以上、女性17歳以上の年若い作業員たちでした。農業用水のため池として漏水や崩壊を防ぐために必要な地固め作業を「土搗き」と言い、その作業は女性の担当でした。約12〜16kgの亀石に綱を括り付け、10人ほどのグループで円陣を組み、綱を一斉に引っ張ったり緩めたりして亀石を地面に落とす動作を繰り返しながら、土を搗き固めます。この単調な作業を一日中繰り返さなければならず、窮屈でくたびれる作業を何とかしようと唄われたのが、笑いの起きるような歌詞を創作して唄った土搗き唄でした。この唄が現在の「花笠音頭」の元と言われており、また、かぶっていた土搗き笠で土搗き仲間（土搗き唄）を送る動作が、現在の花笠踊りの原型になったとも言われています。

工事現場の徳良湖に、若者たちは5〜6km離れた農村から弁当箱を提げて通勤していました。夕方5時に仕事が終わりますが、夏場はまだ日が高く、若い男女にとっては、歩いて通う通勤路が恋をささやく絶好の場だったようです。（上記「徳良湖どんづぎ恋の唄」参照）

当時の土搗き唄の歌詞はほとんどが露骨な艶歌で紹介できるものが限られています。その中でも当時の情景が浮かぶものを抜粋して紹介します。

#### 徳良湖築堤当時の「土搗き（どんづぎ）唄」（花笠音頭のメロディーで）

土手のもぐらもちまだ年若い  
もちやげ（チヨイチヨイ）ながらも顔かくす  
ヨヤヤ（6回繰り返す）※以下囃子は同じ

朝の五時から弁当箱さげて  
長根山通いは楽しめない  
徳良堤に貯めたる水は  
可愛いものの子の田にかける  
そなたそなたよ土搗きつきそなた  
秋の出穂よりまたそなた  
どんづぎ搗き搗きたためたるお金  
昨夜一晩でみなほろた



▲若い女性たちだけで行っていた土搗き作業のイメージ。

市民憩いの場として親しまれる徳良湖で、久しぶりのにぎわい

# 第52回おばなざわ徳良湖まつり

5/3-5

5月3日から5日までの3日間、徳良湖まつりが開催されました。メイン会場となったレストラン徳良湖脇駐車場では、ペダルカーを漕いで親子でリレーし、タイムを競う「親子でハッスル乗り物スピードバトル」や、「親子丸太切り大会」などを開催。また、テニスコートでは「セグウェイ体験」、パンプロラック場では「スケートボードスクール」も行われ、子どもたちは思いっきり体を動かして、アクティビティに挑戦していました。その他にも、「上の畑焼絵付け体験」や「吹きガラス・サンドブラスト体験」「ヨット試乗体験」「徳良湖つり大会」など、まつり期間中は徳良湖周辺で様々なイベントが催され、コロナ禍になってから久しぶりとなる大きなイベントを楽しもつと、大勢の市民が徳良湖に集まりました。にぎわいを見せていました。



ふわふわトランポリン



スケートボードスクール



親子丸太切り大会



親子でハッスル乗り物スピードバトル



サンドブラスト体験



上の畑焼絵付け体験



セグウェイ乗車体験



5市5町2村グラウンド・ゴルフ交流会



輪投げコーナー



ヨット試乗体験



市内パークゴルフ大会



おもしろペダルカー大集合

湖を背景に山形ゆかりのアーティストたちがパフォーマンスを披露

# 徳良湖築堤100周年記念野外ライブ

4/30



▲朝倉さやさん（シンガーソングライター）の伸びのある歌声に魅了されました。

徳良湖が令和3年で築堤100周年を迎えたことを記念し、4月30日、「徳良湖築堤100周年記念野外ライブ」が開催されました。当日朝、会場のグラウンド・ゴルフ場には、深夜から朝方にかけて降った季節外れの雪が5〜6cm積りましたが、昼にはすっかり解け、予定どおり午後1時にライブがスタート。県内ゆかりの6人のアーティストたちが登場し、歌や演奏、ものまねやマジックなどを披露しました。会場では、観覧した市民約500人が徳良湖を望む広大な芝生の上に思い思いに腰を下ろし、拍手をしたり歌を口ずさんだりしながら、約3時間の公演を心ゆくまで楽しんでいました。



▲庄司紗千さん（シンガーソングライター）、加藤皓平さん（市内在住チェロ奏者）、神原瑠子さん（打楽器奏者）による歌と演奏。徳良湖を題材にした曲も披露されました。



▲ステージは、(株)コスモ運輸が所有する、銀山温泉を描いた全長約10メートルの「ラッピングトラック」を活用しました。



▲フィナーレは、出演者全員による「花笠音頭」。なじみのある曲が始まると、会場の皆で拍手！



▲パフォーマーたつみさん（市内出身パフォーマー）のマジックなどに拍手喝采！



▲ムーン小林さん（ものまね芸人）のものまねに参加者は大爆笑！

5/3

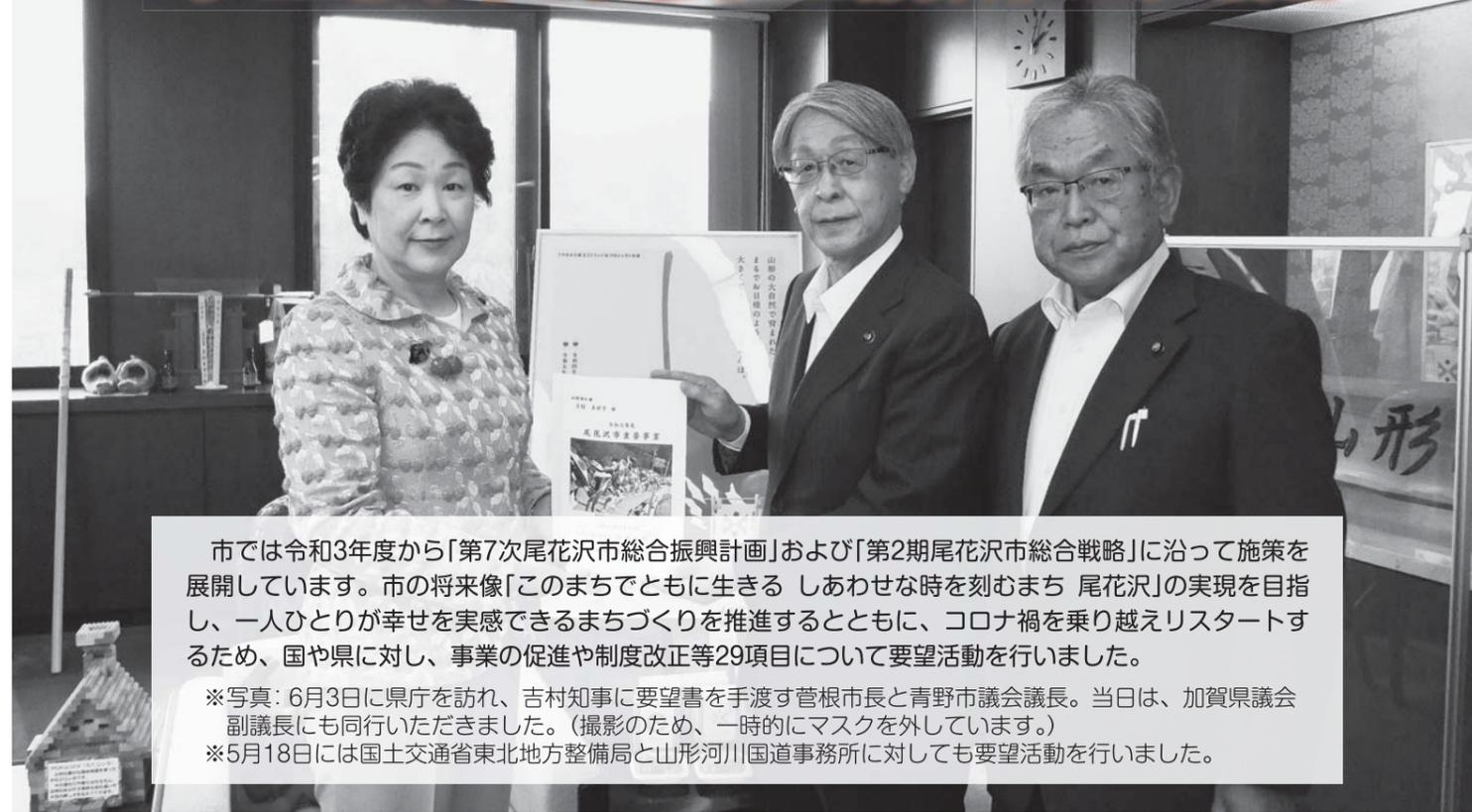
湖畔の風を受けながら「走る楽しみ」を満喫！

# 第46回全国花笠マラソン大会



5月3日、徳良湖畔で「第46回全国花笠マラソン大会」が開催されました。新型コロナウイルス感染症防止のため、参加者は東北6県在住者に限られました。が、マラソン・ウォーキング合わせて約600人が徳良湖に集まりました。参加者たちは、1周約3kmの湖畔を周回するコースを自分のペースで走り、爽やかな汗を流していました。

# 市重要事業要望活動を実施



市では令和3年度から「第7次尾花沢市総合振興計画」および「第2期尾花沢市総合戦略」に沿って施策を展開しています。市の将来像「このまちでもに生きる しあわせな時を刻むまち 尾花沢」の実現を目指し、一人ひとりが幸せを実感できるまちづくりを推進するとともに、コロナ禍を乗り越えリスタートするため、国や県に対し、事業の促進や制度改正等29項目について要望活動を行いました。

※写真：6月3日に県庁を訪れ、吉村知事に要望書を手渡す菅根市長と青野市議会議長。当日は、加賀県議会副議長にも同行いただきました。（撮影のため、一時的にマスクを外しています。）  
※5月18日には国土交通省東北地方整備局と山形河川国道事務所に対しても要望活動を行いました。

交通弱者の社会参加を促進する取組みへの財政支援について

高齢者や障がい者の社会参加のため、「高齢者おもいやりタクシー事業」および「福祉タクシー事業」を県市町村総合交付金の対象事業とするよう、また、「生活交通タクシー助成事業（通称：おぼくる）」を推進するため、「地域公共交通確保維持事業」の補助限度額撤廃を要望。

市では、高齢者や障がい者の生活圏の拡大を図るため、タクシー事業者と連携した「高齢者おもいやりタクシー事業」や「福祉タクシー事業」に取り組んでいます。また、路線バスから、タクシーを定額で利用できる「生活交通タクシー助成事業（通称：おぼくる）」へ転換するなど、利用しやすく効率的な地域公共交通への見直しを図っています。

高齢者や障がい者の移動手段を確保するとともに、持続可能な地域社会の構築に必要な地域交通網を維持していくため、こうした取組みに対する財政支援について要望しました。

県立北村山高等学校が取り組んでいる特色ある学校づくりに対する支援について

北村山高校では地域と協働した特色ある学校を目指し、「コミュニティ・スクールの設立準備を進めています。こうした特色ある学校づくりには、地域と学校をつなぐ橋渡し役が不可欠であることなど、その確保や部局を横断した支援の充実を要望。

市では総合戦略に「ふるさと一番！定住促進プロジェクト」を掲げ、企業や地域、学校、自治体が連携しながら若者の地元定着とふるさと回帰につながる施策を展開しています。

また、北村山高校では、地元企業の協力を得て活動するAI部、徳良湖でのヨットを活かした新たな地域活性化などを通じて、地域と関わりながら、地域課題の解決や魅力発信に挑戦しています。

こうした取組みはふるさとへの愛着や誇りを育むことから、今後も引き続き市を挙げて応援していきますが、同校が特色ある学校づくりをさらに加速できるよう、県の支援を要望しました。

## その他の主要な要望事項

### ■地域の発展に関すること

- 地方交付税の総額確保と財源保障機能の維持
- 若者の地元定着とふるさと回帰に向けた取組みの推進
- 一般国道37号の24時間通年通行化の整備促進及びバイパスなどの改良整備促進

### ■子育て・医療に関すること

- 地域医療を支える診療所運営経費への財政支援
- 北村山地域における地域医療体制の充実
- 山形県保育料無償化に向けた段階的負担軽減事業の継続と拡充
- 子育て支援制度の充実（高校3年生世代まで医療費を無料化）
- 国民健康保険制度への財政支援 充実強化

### ■教育に関すること

- GIGAスクール構想を維持継続するための財政支援

### ■市民の安全・安心に関すること

- 公共施設等総合管理計画に基づく点検診断経費に係る財政支援
- 老朽化した公共施設の解体経費に対する財政支援
- 消防防災施設整備事業に係る補助対象設備の拡充及び基準額の見直し
- 雪国の安全・安心な暮らしを守る雪対策に対する財政支援等の拡充
- 交通安全施設（信号機）の整備促進

### ■産業振興に関すること

- 過疎地域における企業振興策の充実
- 新型コロナウイルス感染症対策として実施した利子・保証料補給に対する令和8年度以降の財政支援
- 特定鉱害復旧事業に係る財政支援
- 中小・小規模企業者に対する人材育成への支援

### ■社会基盤の整備に関すること

- 県道の整備促進
- 市道の整備促進
- 一級河川沢の川の河川改修
- 河川流下能力向上事業の促進
- 土砂災害対策事業の整備促進
- 流雪溝への導水に伴う水利権の許可
- 一般県道東尾花沢線（都市計画道路、中央線）の改良促進



▲北村山高校と地域・企業・自治体が一体となった、若者の地元定着と回帰につながる特色ある学校づくりが求められています。



▲豪雪地でも地震と火災に強いまちで安全安心に暮らせるよう、消防設備の充実を図ることが重要です。



▲「子育て日本一への挑戦」を掲げる尾花沢市。子どもを産み育てられる環境づくりと経済基盤の確保が重要です。



▲人口減少・高齢化が進む中、社会参加と生活圏の拡大促進となるよう、公共交通網の維持・再編による移動手段の確保が必要です。



▲市の基幹産業である農業。農業者が将来に希望が持てるよう、担い手育成・維持発展のための施策が必要です。



▲市民の健康と生命が守られ、安心して住み続けることができるよう、北村山地域の地域医療体制の充実が必要です。